

大久保地区育成委員会だより

第35号

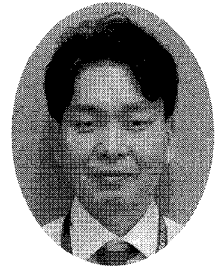
新宿区大久保地区青少年育成委員会

広報部 TEL 3209-8651

令和3年2月号

着任のご挨拶

大久保特別出張所長 市田 亮



大久保地区青少年育成委員の皆さまには、青少年の健全育成活動にご尽力いただいておりますことに心から感謝申し上げます。

今年度4月より、大野哲男前所長の後任として、大久保特別出張所長に着任いたしました市田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルスに翻弄された1年であったと思います。小中学校においては、臨時休校や分散登校を余儀なくされました。また、本来であれば東京オリンピック・パラリンピックが開催されるはずの夏も、子どもたちは本来の夏休みの過ごし方ができませんでした。例年は夏休みが「楽しかった」と答える子どもたちも、不完全燃焼の夏休みが伝わってくる感想が多かったとも聞いており、子どもたちの戸惑いや不安な日々を思うと心が痛みます。

私は、小学生の時に、育成委員会の方々や地域の方々が開催して下さったお祭りなどの地域の行事のことをよく記憶しています。こうした地域行事は、子どもにとつては、これ以上ないほど楽しいものであり、歳が経つにつれてこうした記憶は、輝きを増していくものではないかと思っています。また、私自身も子を持つ親として、大久保地域の子どもたちに、こうした貴重な体験を経験させてあげたいという思いを強く抱いています。

近年は、子どもの虐待問題やインターネットの普及に伴う様々な事件が発生し、子育てを取り巻く環境も大きく変化していると実感しています。また、これに加えて、新型コロナウイルスの収束が一朝一夕には進まない中で、子どもたちのストレスが長期化しているのではないかと危惧しています。

しかし、こうした時期であるからこそ、本来の目的を再確認するとともに、今できることを考え、また将来の展望を改めて考えることも重要であると思います。本委員会の活動も通常の活動が困難な中で、手探りの状況が続くと思いますが、子供たちが地域

社会の中で健やかに成長できるよう、子供たちに寄り添った活動を私も共に考えていきたいと思っております。

最後に、新型コロナウイルスの重症化のリスクは、30代と比較して60代は25倍、70代は47倍にもなることが報告されています。依然として感染拡大が懸念される中で、皆様方におかれましては、くれぐれも健康にご留意頂きますようお願い申し上げます。着任の挨拶とさせていただきます。

雑感

大久保地区青少年育成委員会副会長

社会環境部 新倉 康夫

令和2年に入り新型コロナウイルスという見えない敵と戦う日々の中、出口戦略が見え隠れすれど疲弊感は膨らむ一方である。緊急事態宣言や流行語大賞となった「3密」によって社会活動の停止、商業施設の休業要請、東京五輪の延期など余儀なくされた。その間に増えた「おうち時間」で断捨離まがいをした際に見つけたPTA活動の記録ノート。育成会に携わる発端となった記録と当時の思い出を記す。

戸山小学校のPTA会長として初めて育成会に出席したのが平成10年の春。単Pの活動も把握していない名ばかりの会長であったが、大浦会長、永谷・社会環境部長、大塚・社会環境部副部長、そして当時の戸山中学校（現・西早稲田中）の田近・PTA会長とは商店街の先輩・同輩であり多少の戸惑いもあったが違和感なく参加できた。当時は大久保青少年対策委員会（青対）の名称で役員は大久保地区の各町会長により運営されていたが時代の変遷と共にPTA役員の参加へと移行していった。

大久保中（現・新宿中）、戸山中（現・西早稲田中）、大久保小、戸山小そして天神小の各PTA会長は、青対の副会長に名を連ねる充て職制度？があり、平成23年迄続いた。実際の副会長としての実務をされていたのは事務局長の立場の方であったと思う。

「初めての活動参加!!」

平成10年7月9日、社会環境部主催の「多摩少年院」の見学研修に戸山小PTA役員4名と初参加。参加申込書に学校名、名前、住所、電話番号、そして何故か年齢と血液型も記載した。バスが近付くにつれ緊張感と重い空気に包まれた思い出がある。当院入り口に坂があり、往きは「地獄坂」^{かき}復りは「極楽坂」との教官の説明に得心がいった。どの少年も普通の少年となんら変わらない表情と見えるが、どこで道を踏み外してしまったのだろうか?!「大切なことは親子で一緒に食事をし、会話をたくさんすること」との教えに我が家庭を再確認する有意義な研修であった。

大久保地区の

小中学校にアンケート!

コロナ禍で例年とは違う大変な状況の中、校長先生・副校長先生に答えていただきました。

Q1 学校の特徴、良いところを教えてください。今年度から着任された先生は学校の印象はいかがですか?

Q2 今年度は色々な学校行事が中止になったと思いますが、代わりに行った行事や子ども達のエピソードなど、コロナ禍での学校の様子を教えてください。

Q3 育成会などの地域の人に手伝ってほしいことなどがあれば教えてください。



大久保小学校

山貝正海校長先生

(新任)

「夜間パトロール」

平成10年10月19日に社会環境部主催の「夜間パトロール」(現・夜の歌舞伎町パトロール)に、戸山小PTA役員3名と教員2名が参加。18時30分、大久保小学校の「つつじルーム」に警察官3名を含む、約50名が集合し、薬物に関する「防犯ビデオと講話」を学習。その後、歌舞伎町周辺の少年達が屯するゲームセンター等の実地見聞など各所で警察官の説明を聴いた。電話BOXにピンクチラシが目立っていた頃である。以前、参加者の家族から夜遅く新宿警察署に「主人がパトロールに参加してまだ帰って来ないんですけど?!」と

A1 本校着任後の印象は、子ども達が概して優しく、お互いを大切に行っているということです。お互いの違いを理解し合い、仲良く協力して生活している様子がすてきだと思いました。時代はますますグローバル化が進んでいます。多文化共生の精神をこの学校で身に着けた子ども達の今後の大いなる活躍を期待したいと思っています。

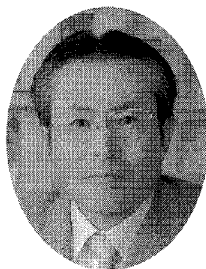
A2 11月末に「大久保スポーツウィーク」を行いました。保護者の方には人数限定で土曜授業日に体育をご参観いただきました。子ども達は制限がある中でも十分に頑張りました。保護者の方からの応援もとても嬉しかったようです。

A3 コロナ禍の状況下で何ができるのかまだ模索中です。地域とのつながりを大切にする子どもを育てていきたいので、例えば町の良さを伝える学習に協力していただくなど、困ったときには相談できる関係性を築いていけたらと思います。

いう問い合わせの電話があったという、本末転倒!?なエピソードがあったそうなの……。

以上、このギョーカイ?に片足を入れた当時の雑パクな思い出であり、不覚にも今や両手両足どっぷり浸かって失敗^{しま}った。

早22年が経過し古希を過ぎた現在、ボケ防止とは言え後期高齢者までと僅か。少子高齢化やIT化の加速、その上、コロナ禍による新しい日常が叫ばれる中、育成会活動にも革新が求められよう。我が齢と世代交代を視野に皆様のお荷物とならないよう心掛けたい。



天神小学校

新井正一校長先生

(新任)

A1 本年度、落合第三小学校から転任してきました。新宿区の学校で勤務するようになってから12年目を迎えました。引き続き区内で仕事ができ、大変光栄に思っております。また、本区の文化発信の一大拠点である新宿文化センターに隣接する、歴史と文化の息づく地域にある天神小学校に着任することができ、本当にありがたいと思っております。

着任当初、校長室から校庭を眺めると、色鮮やかな緑色の天然芝が目に入ってきました。天然芝や旧幼稚園舎(まなびの教室)の前にある桜の花を見てみると、新型コロナウイルス感染症防止対策を受けての対応等で忙しい3・4・5月でしたが、少し心癒される感じがしました。また、本校

の歴史や伝統について4階の『資料展示室』で学ばせていただきました。そこで、令和4年度に開校100周年を迎える本校の歴史について理解するとともに、開校以来、多くの先輩の方々、そして地域の方々が長年に渡って築いてこられた伝統の重みを感じることができました。また、休み時間に校庭で元気に遊んでいる子どもたちの姿を見ていると、改めて、この伝統ある天神小学校に着任できましたことを大変嬉しく思っております。今後とも、どうぞよろしく願います。

A2 感染症の拡大防止のため運動会を中止にしましたが、6年生だけは、スポーツフェスティバルという名称で11月に実施しました。子どもたち自身が考えたゲームや借り物競走などを通して、男女が協力して楽しく取り組んでいる姿を見て安心しました。With コロナの活動は、学級単位になりがちなので、次年度は、少しでも全校で行うものを増やしていきたいと考えています。

A3 After コロナになった暁には、これまでと同じことができればいいと思っています。その時は、ご協力をお願いします。



戸山小学校

矢島直子副校長先生

(新任)

A1 今年度小平市より異動してまいりました。新宿区への異動と知ったときは、正直不安でいっぱいになりました。しかし、初日から地域の方たちが温かく迎えてくださり、安堵したのを覚えて

います。



スポーツフェスティバル

学校の自慢すべき特徴を2つあげます。1つ目は、伝統を守る百人町鉄砲隊の活動(今年度は拝見できませんでしたが)があったり、地域協働学校の皆様が和太鼓など精力的に様々な取り組みをしてくださったりしています。都会では地域、近隣との関係が希薄となつていと言われている昨今ですが、「地域の子ども達を地域のみんなで育てよう」という、地域の方々のご協力が随所にみられることです。

2つ目は、外国にルーツを持つ児童がたくさん在籍していて「国際色豊か」ということです。それも11か国! 小平では、外国関係児童は数名しかおりませんでしたので、目が丸くなりました。しかし、現在はいろいろな国の子ども達と話すこと

ができて、とても楽しい毎日を送っております。私自身の勉強にもなります。

A2 運動会を「スポーツフェスティバル」という呼称に変えて、表現発表のみ行いました。数少ない行事ではありますが、子ども達は目を輝かせ、精一杯の演技を披露していました。

P.T.A.のご協力により、タグラグビー教室やキャリア教育などにも取り組むことができています。

5年生は女神湖宿泊行事の代替で「COGOフェスティバル」を企画し、実施しました。校舎の中でオリエンテーリングをしたり、キャンプファイヤーの代わりにキャンドルサービスをしたりと、思い出つくりを行いました。

6年生は日光移動教室の代替で、3学期にお楽しみ場所へ行く予定です。



西早稲田中学校

村上利明副校長先生

A1 創立16年と歴史は浅いが、木目調の幅広い廊下や南側が全面窓の明るく温もりのある教室を展開し、四季折々植物が点在しており四季の移り変わりを感ずることができる。

幅広い地域・国籍の生徒が在籍していることによつて、多くの文化への尊敬の気持ちが育っている。また、多文化共生の意識が高まっている。

諸活動にも活発に取り組んでおり、生徒会本部や各委員会活動・部活動・ボランティア活動等、生徒が主体的に考え取り組んでいる。中でもJRC部において日本赤十字社から「銀色有功章」を受賞することができた。

A2 本来に多くの行事が中止となり、代替も実施できない状態でしたが、心が温まり癒された行事が「音楽鑑賞教室」でした。本来は新宿区文化センターにて東京都交響楽団のフルオーケストラ演奏を聴くはずでしたが全体が集まれないことから、東京都交響楽団が来校して木管五重奏を本校の体育館で奏でてくれました。

(本校ホームページ11月19日ブログ参照)

フルート、オーボエ、ホルン、ファゴット、クラリネットの楽器が異なる一つ一つの音が素晴らしいハーモニーを奏でてくれました。コロナ禍の不安要素が渦巻く中で、この演奏によって癒しの渦が一時広がったことが良かったです。



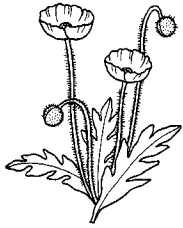
新宿中学校

片倉元次校長先生

A1 大久保中、東戸山中の良き伝統と歴史を引き継ぎ、平成17年4月1日に開校した新宿中学校も16年目を迎えております。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

A2 離任式が中止になりましたが、生徒の発案で、離任した教職員に手紙を送りました。

A3 中学生はある時はおとな扱い、ある時は子ども扱いというように難しい年頃ではありますが、今後ともあたたかくお見守りいただけたらと思います。



大久保未来組からの報告

体育部 小津真知子

今年度前半は新型コロナウイルスによる緊急事態宣言により活動を自粛していました。その間、大江戸ダンス実行委員会の事務局からの誘いでzoomでの練習に5人が参加しました。「見てござる」のダンスレッスンを受け細かい指導をして頂けました。

この新しい動きを大久保未来組でも何とか取り入れることが出来ないか考えましたが、子どもが一人では出来ないため保護者の協力を求めると、全員で同じ日には出来ないということが分かり進めることを中断しています。

子ども達も学校休校でストレスが溜まっていたらうと思っても中々動くことが出来ませんでした。感染者が落ち着いてきた9月後半から一回の練習の時間を短くし、人数も最小限にして一日に2〜3回に分けて練習する事にしました。

地域センターのしっかりとした感染予防マニュアルがあった為にそのやり方を参考に進めることが出来ましたが、それでも、緊張しながらの活動でした。

短い時間でもセンターの大きなホールで踊ることとは子どもにとって嬉しいことなんだと思えました。でも、やはり心配するご家族もあり、ずーっと参加出来ない子ども達もいます。みんなが安心して練習に参加出来るまではまだまだ月日が掛かります。月に1〜2回の練習ですが、無理し過ぎず出来ることが可能であれば注意を払って進めて行きたいと思っています。

皆様もお身体に気を付けてお過ごし頂き、この

先、落ち着いた日々が戻った際には是非「大久保未来組のダンス」を見て頂けたらと思っています。これからもどうぞよろしくお願い致します。

育成会に思うこと

育成部 水谷紀雄

育成会に参加し、それなりの活動を始めた頃に諸先輩の方々から学んだことは、育成会とは地域のPTA活動であり、地域の子供たちの健全育成を目的とするボランティア団体であるということでした。

正直言って、初めの1、2年は活動内容等全くわかりませんでした。でも、私の場合子供が好きでしたし、子供向けの工作教室や科学教室等のイベントを仕事としていましたので、ある意味私のライフワークの幅を広げられるのではと思い、今まで楽しく活動させていただいています。

しかし今年度とは言う、密を避ける、人を集めるな、とのコロナ禍の中です。

さて、その中で育成会あるいは育成部の活動をどのように展開したらよいのでしょうか。正直、四面楚歌です。そしてここ数年、コロナ以前から思うことは、現PTAの保護者の方々の多忙と少子化に拍車がかかっているのではないかとことです。色々な生活環境の中でPTA活動だけでも時間がとられるのにさらに育成会の活動まで……といった声を多く聞くようになってきました。

そんな中でも、私が担当する育成部のイベントにはいつも多くの子供たちの笑顔と楽しく元気な声を聴くことができます。

地域で子供を育てるという言葉も、時代とこの大久保という特殊な環境には少しずれを感じます。

では、そんな世で育成会は何を目指すのか、正直言って私もわかりません、ただ、わかっていることは、育成会の在り方、運営方法を大きく見直すことが必要ということです。

平成から令和に年号が変わったように、育成会も大きな変革を求められているような気がします。いま、この場でその答えを発表できる材料はありませんが、子供が子供らしく大騒ぎできる場をもう一度提供することを目指したいと思います。

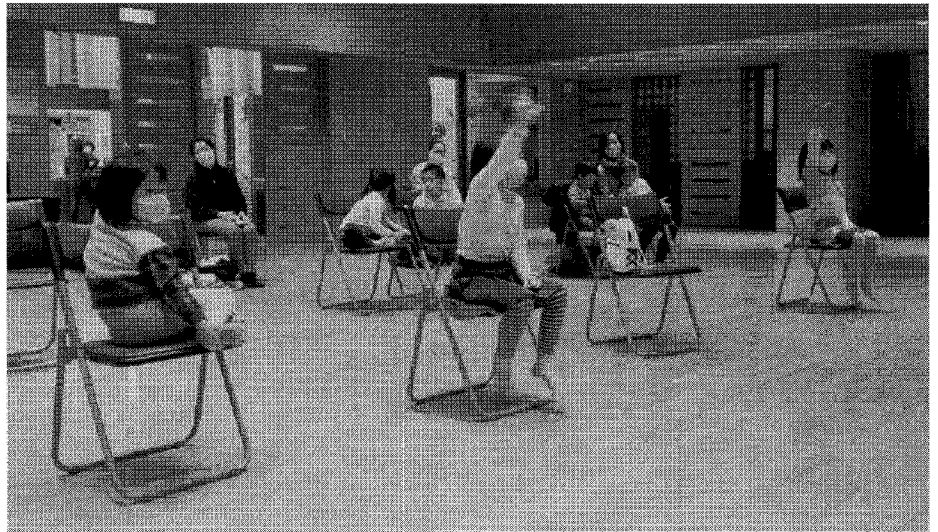
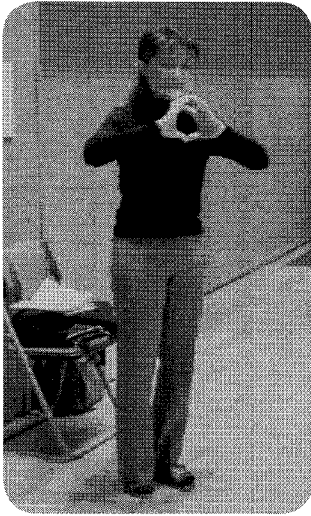
手話でクイズ!!

親子合唱団 岩垂香澄

コロナで始まりコロナで終わった2020年。9月から親子合唱団は感染予防の対策を取りながら練習を再開してきました。小さいお友だちも検温、手指の消毒、そしてかわいいマスクをして参加してくれました。

あいついでイベントは中止になり、練習した歌を発表する場がありませんでしたが、新しい歌もたくさん覚ええました。

そんな年の最後の練習日、いつもはクリスマスソングを歌って皆で賑やかにおしゃべりをします



が、今はそれができません。それでいつもとは違うゲームをすることにしました。今まで覚えた歌を先生に声を出さずに手話だけで歌ってもらい、何の歌かあててもらおうゲームです。

難しいものもありましたが、みんなよく覚えていてくれました。親子合唱団ではいつも歌にあわせて手話の練習もしていますが、最近気が付いたことがあります。「手話なら、飛沫を飛ばさずに会話ができるんだ!!」と。

会話ができるほどになるのは大変ですが、簡単

な挨拶なら、とその日の最後にみんなですぐに「こんにちは」の手話を覚えて帰りました。一日も早くコロナ禍が収束して、またみんな元気いっぱい大きな声で歌える日が来ることを願っています。

子ども総合センターからのお知らせ

家庭でできる子育て支援を

はじめてみませんか?

★東京都養育家庭(里親)
★新宿区子どもショートステイ
協力家庭募集中

東京都には様々な事情で、家族から離れて暮らす子どもたち(0歳から18歳まで)が約4,000人います。都では家庭と同様の養育環境で子どもたちが健やかに育ち自立できるように家庭的養育推進の取り組みを行っていますが、里親家庭にいる子どもは、わずか15%ほどです。

里親には養子縁組を目的とする里親だけでなく、一定の期間養育していただく養育家庭(里親)があり、里親の方のライフスタイルや考え方に合うかたちで、預かる子どもたちの年齢や期間を東京都と話し合いながら決めていただくことができます。

家庭で暮らすことができない子どもたちとの生活を始めてみようという方は、左記にお問い合わせください。

また、新宿区では子どもショートステイ協力家庭を募集しています。保護者の入院、出張、育児疲れなどの理由で、一時的に子どもを養育できな

い時に7泊までお泊まりでお預かりいただくご家庭が協力家庭です。

いつもの保育園、幼稚園、小学校などに通いながらのお泊まりなので、子どもの通園通学先の徒歩圏内に協力家庭を必要としています。年間延べ約150日〜200日の利用があります。ご支援いただける方は、以下にご連絡ください。

区では区民の方とともに、児童虐待防止について考えていく講演会を次のように開催予定です。

新宿区子ども家庭・若者サポートネットワーク
虐待防止等部会研修会

〜コロナ禍の子どもを取り巻く状況と

今わたしたちにできること〜

日時 令和3年2月26日(金)

14:30〜16:30

場所 四谷区民ホール(内藤町87)

講師 石井 光太(作家)

著書「漂流児童

福祉施設の最前線をゆく」

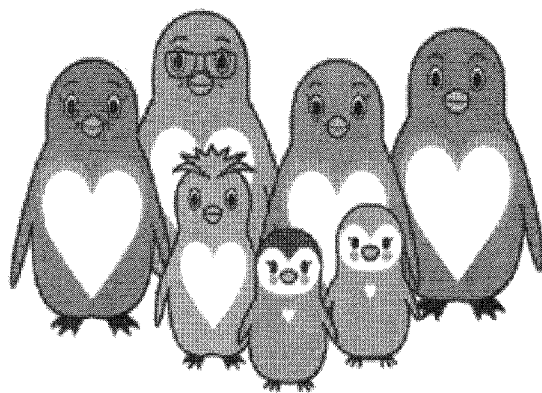
「43回の殺意 川崎中1男子生徒
殺害事件の真相」

「浮浪児 1945〜戦争が生んだ子供
たち」他多数

内容:コロナ禍の中、さらに深まる貧困、

DV、児童虐待。これまで国内外の貧困・災害・事件をテーマに取材・執筆をしてきた講師の講演を聴くとともに、地域でできることを考えていきます。

【事前申込み】1月27日〜2月16日



【東京都里親制度PRキャラクター】
さとペン・ファミリー

★東京都養育家庭(里親)についての問い合わせ

【東京都児童相談センター】

☎03-5937-2316

★新宿区子どもショートステイ協力家庭および

新宿区子ども家庭・若者サポートネットワーク
虐待防止等部会研修会

についてのお問い合わせ、お申し込み

【新宿区立子ども総合センター】

子ども家庭支援課総合相談係

☎03-3232-0675



お知らせ

令和2年5月19日に予定しておりました「令和2年度大久保地区青少年育成委員会総会」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。関係各位には、委員総会資料を配布し、「ご報告させていた

編集後記

これを書いている現在、東京は2度目の緊急事態宣言の中にあります。

今年度はコロナ禍の影響で大久保地区育成委員会も活動が制限されています。そんな中PTAの方から「育成会のライングループを作って、集まらなくても話ができるようにしてみても？」という提案があり、さっそくラインのグループを作りました。アナログ派のメンバーの中には抵抗もあったかと思いますが、情報のやり取り、コロナ感染者の増加で役員会を中止する時の連絡など、スムーズにできるようになりました。

昨今は忙しい保護者の方が多くPTAの活動も難しくなっている中、育成会も時代に合わせて変わっていく必要があり、コロナ禍が大きなきっかけになっていく氣もします。

「大久保地区育成会だより」は通常年2回発行していますが、今年度は1回のみとなりました。コロナ禍でいつも通りの活動ができなかった中で、各部員の皆さんには現状や今の思いなどを書いていただきました。地域の活動は不急ではあっても不要ではないはず……と信じて、早く普通に活動できる日が来てほしいと思っています。

広報部 谷内郁子